

■ 人間学部【2019年度入学者用】

一 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

人間学部では、知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度の項目において、学科において学位授与方針を定めています。それは、本学の教育ビジョン・建学の精神「智慧と慈悲の実践」にもとづきながら、「4つの人となる」（「慈悲」・「自灯明」・「中道」・「共生」の人となる）という言葉の中に、その基本的精神と願いが表現されています。

人間学部では、常に変化する現代社会にあって、日常生活において自ら考え、行動する能力を有すると同時に、さまざまな問題を課題として発見し、解決するための能力と行動力を備えた学生に学位を授与します。

一 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、教育ビジョン「4つの人となる」ために、幅広い教養と学びの技法を身につけるための共通教育科目である「第Ⅰ類科目」、学科の専門教育科目である「第Ⅱ類科目」、資格取得とキャリア形成に関する「第Ⅲ類科目」を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。人間学部においては、各専門分野の知識・技能を身につけ、生涯学び続けていく意欲と関心を養うために、基礎ゼミナール、専門別のゼミナール、実習を中心としたカリキュラムを編成しています。

一 アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学では、本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成することを目指し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。そのため本学は、以下の資質・能力を備えた学生を受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行います。

人間学部においては、高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・外国語について高等学校卒業相当の知識と技能を有し、自らの体験について筋道を立てて自分の言葉で表現する力とともに、自らの学びを通じて人々や地域社会に積極的に関わっていこうとする意欲を持つ、資質・能力を備えた学生を求めます。

■ 教育人間学科

一 ディプロマ・ポリシー (DP)

教育人間学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、教育人間学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能	① 教育学、教職専門学、学校（大学）経営等の諸分野について、基礎的な専門知識を身につけている。 ② 上記の学問知を自らの実践知（実践的行動）へと適用・応用することができる。 ③ 教育現場の問題解決のために必要な知識・技能を身につけている。 ④ 基礎的な研究方法や読み書き作文能力を身につけている。
思考・判断・表現	⑤ 上記の学問知、実践知によって身の回りや社会における諸問題を自ら発見・分析し、解決方法について考察することができる。 ⑥ 上記の学問知、実践知について、自らの考えを他者に対して口頭あるいは文章で適確に表現することができる。
関心・意欲・態度	⑦ 教育及び人を育てることに強い関心があり、その多様な方法や価値観について日々学び続けようとする姿勢を有している。 ⑧ 上記の学問知、実践知を活かして、社会、地域社会における自らの責任と具体的な役割を考えようとする態度が身につけている。 ⑨ 上記の学問知、実践知をもって社会（コミュニティ）が抱えている課題に、他者と協働して解決しようとする意欲を有している。

一 カリキュラム・ポリシー (CP)

教育人間学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、教職コース及び教育・学校経営マネジメントコースにおいて、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	① 教育学、教職専門学、学校（大学）経営等の諸分野について、基本的な研究方法論と基礎的な知識を身につけてもらうため、1年次2年次では教育学の基礎をはじめとする基礎科目を配置します。 ② 実践知としての適用力・応用力を身につけるために、1年次から学校現場体験（教育の現場を知る）を配置します。特に発達障害の児童生徒に関わるための基礎的な知識と技能について学ぶ臨床発達心理学を1年次春学期に配当します。 ③ 教育に関する専門的な知識及び実践知を身につけるため、教職コースでは、2年次・3年次に教職課程の科目を集中的に配置します。教育・学校経営マネジメントコースも同様の観点から、大学経営に関する科目を主として2年次3年次に配置するとともに、職員業務の現場演習を3年次4年次に配当します。 ④ 1年次には、基礎的な研究方法のほか、読む・書く・発表に関わる技能を修得するため、演
-------------	--

	<p>習科目として「基礎ゼミナール」を配置します。</p> <p>⑤ 2年次には、社会における自らの役割や責務について考える「教育キャリアゼミナール」を配置します。</p> <p>【総合】</p> <p>本学科で要求される DP 各項目を総合的に完成させるために、専門ゼミナールでは2年間の一貫教育を通して卒業論文を完成させます。</p>
<p>教育方法</p>	<p>① グループワーク：各ゼミナールを中心に、学生のグループワークを中心に展開する科目を配置します。</p> <p>② PBL*：各ゼミナールを中心に、学生自身による問題や課題の発見、資料の収集と分析、解決方法の検討を行います。（*PBL=Project Based Learning）</p> <p>③ プレゼンテーション・討論機会の充実：1年次より発表・討論の機会を豊富に提供します。</p> <p>④ 幅広い学びの選択肢：両コースともに計画的な履修のモデルを学生に提示するとともに、主体的な学びを推奨するために様々な科目を広く選択できるように配慮します。</p> <p>【総合】</p> <p>実践的科目：現場体験（教育の現場を知る、職員業務の現場演習）の機会を豊富に提供します。専門ゼミでも、実地研修（フィールドワーク、現場での授業参観、研究会等への参加）の機会の提供に努めます。</p>
<p>評価</p>	<p>① 卒業論文については複数の教員による口述試問を通して評価し、DP 達成の判断基準とします。</p> <p>② 各年度末に、学生の GPA や授業参加状況を学科教員全員で共有し、それに基づいたカリキュラム改善を検討します。</p>

一 アドミッション・ポリシー（AP）

教育人間学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

<p>知識・技能</p>	<p>① 高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、外国語について内容を理解し、高等学校卒業相当の知識、学力を有している。</p> <p>② 教育人間学科・所属するコースの学びに必要な基礎的な知識・技能を身につけている。</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>③ 物事を順序立てて説明することができる。</p> <p>④ 多様な考え方を自分なりに整理して考察することができる。</p>
<p>関心・意欲・態度</p>	<p>⑤ 読む、書く、聞く、話す能力の向上や、分かりやすい表現方法の習得に関心と意欲を持っている。</p> <p>⑥ 教育に関わる様々な問題に対して深い関心を持っている。</p> <p>⑦ 自らの学びを通して、社会、地域社会に積極的に関わっていかうとする関心と意欲を持っている。</p> <p>⑧ 他者と協力し、他者の立場に立って物事を考えようとする態度を有している。</p> <p>⑨ リーダーシップとフォロワーシップの双方を理解し、今は不十分でも今後身につけていかうとする意欲を持っている。</p>

■ 社会福祉学科

一 ディプロマ・ポリシー (DP)

社会福祉学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、社会福祉学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能	① 社会福祉学における人と社会を理解するために、必要な読解力と記述力、及び学問の方法を身につけている。 ② 社会福祉学の価値・知識・技術を、人と社会への支援に活用する方法を身につけている。
思考・判断・表現	③ 学んだことを生かして、自らの生き方及び果たすべき責任や役割について考察を深めることができる。 ④ 社会福祉学領域の研究や方法を通じて、地域社会や身近な人々の間で生じている問題を発見し、その解決方法を判断し、不足する点の改善を図ることができる。 ⑤ 学んだ知識、実践知について自らの考えを他者に対して的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	⑥ 社会福祉学の学びから学習や研究課題を設定し、主体的に取り組む姿勢を有している。 ⑦ 他者と協働し、共生社会構築の役割を担う意欲をもっている。 ⑧ 多様な人々の価値観を受け止め、円滑な人間関係を築き、チームアプローチにより目標達成に向けて努力することができる。 ⑨ グループの特性に応じて、適切なリーダーシップやメンバーシップを発揮する姿勢を有している。 ⑩ 自分自身の不足する点は率直に振り返り、自身の成長につなげることができる。 ⑪ 社会福祉学の価値・知識・技術を理解し活用できるよう、日々成果を蓄積しようとする意欲を持っている。

一 カリキュラム・ポリシー (CP)

社会福祉学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、社会福祉学固有の能力と、市民性を涵養するジェネリックスキルをもつ人材養成に向けて、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	① 社会福祉学の基盤となる価値や理念を理解し、それらを具現化する基礎的な知識、思考力・判断力・表現力を養成するために、基礎部門の科目群を配置します。 ② 社会福祉学及び関連領域の蓄積に基づき、人と社会を支援するための専門的技能の基盤となる価値・知識・技術を、講義・演習・実習等により体系的に身につけるために、専門部門の科目群を配置します。
------	--

	<p>③ 社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格取得に必要な指定科目を配置します。また、すべての科目は、社会福祉士、精神保健福祉士を養成するために十分な水準とします。</p>
<p>教育方法</p>	<p>1. 基礎部門：</p> <p>① アクティブ・ラーニング型講義：学生が学びの主体となるように、関心や意欲を高めて知的好奇心を育て、価値と倫理教育の基盤である感性を磨くために、「社会福祉入門」を配置します。</p> <p>② サービス・ラーニング：共生社会構築に貢献する市民性涵養の基礎力をつけるために、少人数教育による社会福祉学基礎ゼミナールを配置します。</p> <p>2. 専門部門：</p> <p>① アクティブ・ラーニング型講義：専門職養成と市民性涵養のために、学生の知的好奇心を発展させ、問題解決への知識や技術を高める授業を展開します。</p> <p>② インターンシップ：幅広い職業経験を深めるために、少人数のグループ指導と個別指導を軸とする PDCA サイクルにより授業を展開します。そして、学生の主体性を高め、自己の目標を設定し実施することで、不足する点に気づき改善できる教育を提供します。</p> <p>③ 演習と実習：社会福祉士などの専門職養成のため、大正大学約 100 年間のソーシャルワーク教育成果に基づき、ジェネラリスト・ソーシャルワークに加え、精神科医療・学校・コミュニティ・病院で活躍できるプログラムを、社会福祉現場や実務者の協力を得て少人数教育により提供します。</p> <p>④ プロジェクト・ベースド・ラーニング：卒業研究は、学問の方法やアカデミックな倫理を定着させ、実践的・論理的・創造的な研究活動を表現する機会を創るために、少人数ゼミにより 2 年間を通じてグループによるプロジェクト研究を進めます。</p> <p>⑤ ピアサポートとグループダイナミズムを活用した国家試験対策： 社会福祉士国家試験対策は、2 年次より 4 年次まで開講し、社会福祉学科が目指す知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度を有する社会福祉士になるために、資格試験勉強においても自主性を育みます。学習を習慣づけ専門的な知識を定着させるために、学習目標は個人とチームで設定し、グループダイナミズムにより互いに学び、励まし合う場を提供します。</p>
<p>評価</p>	<p>① 4 年間の総括的な学習成果として卒業研究を課し、その成果を発表する場として口頭試問審査発表会を開催します。グループで協働・分担したプロセスや作成した成果物に対しては、複数の教員の合議に基づき、DP の達成状況を総合的に評価します。</p> <p>② カリキュラム改善のため、学期ごとに学生の成績や授業への参加態度を確認するほか、卒業時にはカリキュラムルーブリックに基づくアンケートを実施し、教育内容や方法の見直しを行います。また、DP に基づいた教育活動をその効果や効率的観点をふまえ組織的に推進します。</p>

一 アドミッション・ポリシー (AP)

社会福祉学科は、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を

育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能	① 社会福祉学科の学びに必要な基礎的な知識を有している。 ② 高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・外国語について内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ③ 課題を的確に理解し、その解決のために必要な情報を集めることができる。
思考・判断・表現	④ 物事を順序立てて考えることができる。 ⑤ 多様な考え方を自分なりに整理し考察することができる。 ⑥ 自分の考えを口頭や文章でわかりやすく伝えることができる。 ⑦ 多様な考えや価値観を受け入れ、尊重することができる。
関心・意欲・態度	⑧ 文化や歴史、人間の生活にかかわる様々な問題に対して、深い関心を持っている。 ⑨ 自らの学びを通じて人々や地域社会に積極的に関わっていこうとする意欲を持っている。 ⑩ 読む、書く、話す、聞く能力の向上と、わかりやすい表現方法の習得に意欲をもっている。 ⑪ 他人の立場に立って物事を考え、行動する態度を有している。 ⑫ 人と心を通わせ、協力して目標を達成する姿勢を有している。

■ 人間環境学科

ー ディプロマ・ポリシー (DP)

人間環境学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、人間環境学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能	① 人間環境分野の学びに関する幅広い知識と人間環境分野に学術的に取り組むための研究方法を身に付けている。
思考・判断・表現	② 人間環境分野の学修内容と研究方法の核心を理解し、現実社会の中で活用できる。 ③ 「環境」及び「観光まちづくり」の学問領域を中心に、さまざまな事象を多面的かつ学際的に思考することができる。 ④ 「環境」の分野において、生活者としての視点からの問いと意見を創造するとともに、それを論理的に表現することができる。
関心・意欲・態度	⑤ より良い社会の形成と発展に寄与していくために、「環境」及び「観光まちづくり」分野の学術的成果を、主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身に付けている。 ⑥ 人が「社会」や「自然」とよりよく共存していくための行動力やコミュニケーション能力を身に付けようとする姿勢とともに、目標達成に向けた協働性を有している。

ー カリキュラム・ポリシー (CP)

人間環境学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、環境政策コース及びこども文化・ビジネスコースにおいて、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	① 1・2年次には、持続可能なまちづくり、自然環境保全、環境教育、こども産業、循環型社会、国際協力、多文化共生などについて、基礎段階から応用段階に至る幅広い知識を習得するために、基礎講義科目を設けます。 ② 3・4年次には、各分野の専門的な知識・技術を習得するために、応用的な専門科目を設けます。 ③ 「環境」「まちづくり」「こどもと家族」の分野に関わる文化やビジネスの実践事例については、その知識と理解を獲得するために、フィールドワーク（現地実習科目）を設けます。 ④ すべての講義系科目は、学習意欲、発想力、行動力、コミュニケーション力を段階的に身につけるために、ワークショップとの連携を基本において展開します。
教育方法	① アクティブラーニング科目：「ワークショップ」ではグループ学習を基本とし、随時発表等を取り入れながら、教員と学生の双方向的なコミュニケーションを重んじた学習展開を行います。「フィールドワーク」では数日間の現地実習を行い、生活者の視点に立ってさまざまな課題を見出します。ここでは、教員のみならず地域の人々も指導者となります。 ② 専門ゼミナール科目：少人数による開講とし、課題抽出、情報収集、共同研究、ディスカッションを経て、個人の課題を明確にし、卒業研究につなげます。

評価	① フィールドワーク（現地実習）、ワークショップでは、倫理的態度や姿勢、記録や報告書、成果発表会の質疑により、複数教員の合意により評価します。 ② 卒業論文は 4 年間の集大成と位置づけ、複数教員の口述試問を経て、学科の定めたルーブリックを用いた合議によって評価をします。 ③ カリキュラムをより効果的・効率的なものにするために、定期的カリキュラムアセスメントを行います。 ④ 毎学期、各授業における学生の定性的情報を交換し、個々の問題に対応するとともに、学科の教育課程の改善を図ります。 ⑤ DP 達成度を卒業時アンケートによって確認し、その結果を教育課程の改善に役立てます。
-----------	---

－ アドミッション・ポリシー（AP）

人間環境学科はディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した能力・資質を総合的に備えた学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能	① 人間環境学科の教育内容が理解できるように、高等学校で履修する国語、公民などに関する基礎的な知識・技能を有している。
思考・判断・表現	② 文章や口頭で自身の考えを分かりやすく述べることができる。 ③ 「環境」「まちづくり」「こどもと家族」に関する情報を整理することができる。
関心・意欲・態度	④ 人が「社会」や「自然」と共存していくことを自らの問題として捉え、共に解決していこうとする姿勢を有している。 ⑤ 地域の中でリーダーとして活躍するなど、地域社会に貢献する意欲を有している。